

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

速報第4号

平成29年度病虫害発生予察速報第4号について

このことについて、病虫害発生予察速報第4号（水稻のトビイロウンカ）を発表したので送付します。本年は水稻のトビイロウンカの発生が平年に比べて多く、これまでに2回注意報を发出（8月9日並びに9月7日付）し、注意喚起を図ってきたところです。

しかし、その後も依然として多発ほ場が見られ、9月中旬以降、既に一部のほ場で「坪枯れ」が発生している状況です。

ほ場での発生状況を早急に確認し、発生が多い場合は直ちに補正防除を行うよう、防除指導を徹底して下さい。

1 対象作物名：水稻

2 病虫害名：トビイロウンカ

3 発生状況

9月5半旬におけるヒノヒカリ（13ほ場）の巡回調査の結果、すべてのほ場で発生が認められ、10株当たりの成幼虫数は平均で297頭（多発ほ場で1,150頭）と、9月2半旬の調査時より大幅に増加している（表）。

また、齢期構成は若齢幼虫が84.5%であった。

表 トビイロウンカのヒノヒカリにおける発生状況

調査時期	発生ほ場率(%)	10株当たり成幼虫数(頭)		齢期構成(%)			
		平均	多発ほ場	若齢	中齢	老齢	成虫
9月5半旬	100	297	1150	84.5	13.3	0.9	1.3
9月2半旬	77	47	292	7.8	34.7	27.0	30.5

4 防除上注意すべき事項

(1) 現在、ヒノヒカリ等「中生品種」を中心に飛来後第3世代若齢幼虫が多く見られており、幼虫の齢が進む9月末～10月上・中旬にかけて、「中・晩生品種」で「坪枯れ」の発生増が懸念される。

(2) 本種の発生量は近接ほ場間でも、また、同一ほ場内でも大きな差が見られる。

このため、近隣水田の「坪枯れ」の発生状況に十分留意するとともに、ほ場の巡回を徹底し、要防除水準を超えたほ場では直ちに防除を行う。

<要防除水準：中老齢幼虫数>

飛来後第3世代（9月中～下旬）：100株当たり 1,000頭以上

***水稻の株元が下図2のような状態の場合は緊急防除を！**

(3) 「坪枯れ」が発生したほ場では、緊急に農薬散布を実施するとともに、可能な限り収穫を早め、減収被害の拡大を防ぐ。

(4) 防除に当たっては農薬が株元まで届くよう散布し、散布後に防除効果を必ず確認する。

また、農薬の収穫前使用日数及び使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。



図1 「坪枯れ」の発生ほ場



図2 中老齢幼虫の多発ほ場

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

